

第1回 青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会 議事録

日時：令和4年8月30日（火）14：00～15：55

場所：仙台市役所2階 第一委員会室

〈出席者〉

【委員】

姥浦道生委員、榊原進委員、紫富田薫委員、庄子真岐委員、高山秀樹委員、深澤百合子委員、松田法子委員、宮原育子委員、藻谷浩介委員 以上9名（五十音順）

（※）下線を付した委員はウェブ参加

【仙台市】

金子文化観光局長、高島文化観光局次長、中山文化観光局次長（音楽ホール整備推進担当）、奥山観光交流部長、大森文化スポーツ部長、市川交流企画課長、神倉交流企画課主幹兼庶務係長、田中震災メモリアル事業担当課長、日下観光課長、川口企画調整担当課長、佐々木文化企画推進担当課長、千田地下鉄沿線まちづくり課長、阿部公園整備課長、長島文化財課主査

〈議事等要旨〉

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ（ビデオメッセージ）

仙台市長の郡和子でございます。青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会の開催に当たって、ご挨拶を申し上げます。

人口減少や少子高齢化が急速に進む中で、本市が持続的に発展し、選ばれるまちとしてあり続けるためには、仙台独自の個性を磨き上げ、その魅力を国内外に発信していくことが必要です。

本市では、基本計画や都市計画マスタープランに基づき長期的なまちづくりを進めており、中心部においては、都心再構築プロジェクトや定禅寺通等各エリアの特性を踏まえた賑わいづくりなど、交流を生み出す様々な取り組みを行っているところです。

この「都心」と隣接し、仙台駅からわずか2km程のところに青葉山エリアはございます。仙台はじまりの地という歴史的な重みを有しながら、豊かな自然に恵まれ、美術館や博物館、大学キャンパスなど、文化、芸術、学術面での様々な資源が集積しているほか、コンベンション開催の中心的な役割も果たしています。

現在、青葉山公園の整備、大手門復元に向けた調査、音楽ホールと震災メモリアル拠点の複合整備など、各プロジェクトを進めているところです。

また、東北大学植物園のある一帯は、江戸時代には御裏林（おうらばやし）と呼ばれ、現在も学術上希少な動植物が多く、園を含む青葉山全体が国の天然記念物に指定されているという大変貴重な場所となっています。

これほど多くの魅力ある資源が、都心と隣接したエリアに凝縮している都市を私は他に存じ上げません。地下鉄沿線という優位性を活かしながら、ハード、ソフトの個々の資源を掛け合わせることで、エリア全体がテーマパークのような魅力あふれる場所となり、一日では時間が足りない

いう過ごし方ができる場所になり得ると思っています。

観光やビジネス、国際会議などで訪れる方はもちろん、家族連れやカップルなど、市民の皆様が何度も足を運びたくなり、一度も訪れたことのない人が、「仙台」といえばまずはこの青葉山エリアを思い浮かべ、行ってみたいと思ってもらえるような場所にしたいと考えております。このエリアの優れた個性を磨き上げていくことで、他のエリアとともに仙台の魅力を重層的に高め、選ばれるまちとしてさらに輝く。私は、この場所がそうした存在になるものと確信しています。そのような思いを含め、このエリアの価値や魅力、可能性をビジョンとしてとりまとめていきたいと存じます。ぜひ委員の皆様のお力をお貸しいただきますようお願いを申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。

4 委員紹介

姥浦委員： 東北大学の姥浦と申します。どうぞよろしくお願いいたします。専門は都市計画まちづくりです。私今青葉山の麓じゃなくて山の上の方にありますが、そこ中心部を結ぶ非常に重要な部分かと思っておりますので、微力ながら頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。

榊原委員： 都市デザインワークスの榊原と申します。市民主体のまちづくりを、仙台を拠点に展開しております。よろしくお願いいたします。

紫富田委員： 株式会社コングレの紫富田と申します。よろしくお願いいたします。コングレについて紹介させていただきますと、国際会議や医学会等のコンベンション、イベントや展示会の企画・運営を行っております。G7のサミットや医学会総会等を行っており、業界等ではこの、ミーティング、インセンティブトラベル、コンベンション、イベント&エキシビションの頭文字をとりまして、MICE（マイス）と呼ばれております。

仙台では、東北支社を中心に、東北大学様の医学会や、前回のG7の財務大臣会合で大変お世話になりました。財務大臣会合のときは秋保温泉が会場でしたが、青葉山の騎馬像前で記念写真を撮らせていただきました。3月の地震で今、修理中とお聞きしちょっと心配しております。

もう一つが、人が集まるということのノウハウを活用しまして、展望台や科学館、水族館等の運営やコンベンションセンターや展示場の運営も行っております。こういった施設を中心としたまちづくりに関わっておりますので、自治体の皆様、大学や企業や市民の皆様と、一緒に活動しております。今回はこうしたMICE、コンベンションの立場からお話をさせていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

庄子委員： 石巻専修大学経営学部の庄子真岐と申します。よろしくお願いいたします。私の専門は観光まちづくりです。まちづくりを観光に生かしていくという視点で、実践的な活動と調査研究を行っております。仙台市民でもありますが、石巻にいますと、仙台は、県内はもとより東北の憧れの地でもありますので、しっかりその視点も踏まえて良いビジョンを作っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

高山委員： 仙台商工会議所の高山と申します。商工業者の立場・視点から、意見を述べられればと思っております。よろしくお願いいたします。

深澤委員： 東北大学名誉教授の深澤百合子と申します。仙台市では仙台市文化財保護審議会の会長と、仙台城跡調査・整備委員会の委員をしております。こちらの会においても、文

化財的な観点からいろいろ意見を述べさせていただきたいと思ひますし、文化財だけに限らず自然豊かな所なので、環境、自然の保護などを重点的に考えていきたいと思ひておりますのでよろしくお願ひいたします。専門は発掘調査など考古学でございます。

松田委員： 松田法子と申します。専門は建築史と都市史です。京都からの参加となりますが、青葉山公園とセンター施設の整備に関してご縁があり、お声がけいただいたと思ひております。よろしくお願ひいたします。

宮原委員： 宮城学院女子大学の宮原と申します。長らく仙台で観光やまちのにぎわいづくりのお手伝いをしてきています。今回は、青葉山エリアの様々なにぎわいを皆さんと議論しながら、高めていければと思ひています。どうぞよろしくお願ひいたします。

藻谷委員： こんにちは。藻谷でございます。ホテルの一室からの参加で大変恐縮でございます。今松山にいますが、あちこちで仕事を行ったついでにワーケーションをしており、この間も三泊ほど仙台に泊まって、都心の住人になりきって暮らしてみようというのをやってみました。夫婦でやってみました。改めて青葉山エリアの魅力を感じました。

また、毎年仙台市の職員研修の講師も務めており、仙台市には100回以上来ていると思ひますが、出張で来るだけで青葉山や広瀬川の魅力をほとんど味わった経験がないということに改めて気が付きました。先ほど市長がおっしゃった、この地が、もっと住んでる人や外から来た人に忘れがたい場所にできると思ひるので、ぜひお手伝いしたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

5 座長、座長代理の選出

事務局： 続きまして、座長及び座長代理の選任でございます。要綱に基づき、座長は委員の互選により定めることとなっております。委員の皆様、いかがでしょうか。

高山委員： 委員長には宮原先生をご推薦したいと思ひます。

事務局： 皆様いかがでしょうか。宮原委員よろしいでしょうか。それでは、宮原委員、よろしくお願ひいたします。続きまして、座長代理の選任についてでございます。座長代理は座長の指名により定めることとなっております。宮原座長、いかがでしょうか。

宮原座長： 長年、仙台市の市民中心のまちづくりにご尽力いただいております榊原委員にお願いしたいと存じますがいかがでしょうか。

事務局： 皆様いかがでしょうか。榊原委員よろしいでしょうか。それでは、宮原委員に座長を、榊原委員に座長代理をお願いいたします。よろしくお願ひいたします。ここからの進行については座長の宮原委員にお願いいたします。

宮原座長： 今回、座長を務めさせていただくことになりました宮原です。改めて、どうぞよろしくお願ひいたします。今回の会議の進行についてですが、本日私は体調不良のため、ウェブ参加にさせていただいております。それで、会議の全体の把握が円滑に行えないため、早速で申し訳ないですが、榊原委員にこの会議の進行を委任したいと思ひます。皆様、いかがでございますか。では、榊原さん、突然ですがどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

榊原座長代理： はい。今回だけだと思ひますが、進行について座長の委任を受けました。宮原座長に代わって進行を務めさせていただきます。力不足かと思ひますが、議事進行にご協力をよろしくお願ひいたします。

6 議事

(1) 懇話会の運営について

榊原座長代理： それでは、次第に沿って進めてまいります。議事の(1)懇話会の運営について、資料1の説明を事務局からお願いします。

交流企画課長： 交流企画課長の市川でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。では、議事(1)「懇話会の運営について」でございます。資料1をご覧ください。当懇話会は、お配りしております青葉山エリア文化観光交流ビジョン検討懇話会設置要綱に基づき設置しております。内容は記載のとおりでございますので説明は割愛いたしますが、裏面の第8条に、懇話会の運営に関して必要な事項は座長が懇話会に諮って定めることとしております。この運営に関しまして、資料1によりご説明申し上げます。

はじめに、「1 会議の公開」についてでございます。本市の附属機関等に準じ、原則として公開としております。資料の(1)のア～ウのいずれかに該当する場合は、非公開とすることができます。(2)は傍聴者の定員に関する事で、事務局が定めることとします。(3)は、傍聴者に遵守していただく事項について記載しております。「2 議事録の作成」についてですが、(1)のとおり事務局にて作成いたします。議事録は(2)のア～オの事項について記載することとしまして、事務局にて作成した案を、出席いただいた委員の皆様へメールでお送りし、ご確認をいただきます。皆様にご確認いただいた後、(3)のとおり、座長と座長が指名したお一人にご署名をいただきたいと存じます。

榊原座長代理： ありがとうございます。今の点についてご質問はありますか。ウェブの方も、ちょっと見にくいので、積極的に手を挙げたり声掛けをお願いいたします。何か今の件でご質問はありますか。よろしいでしょうか。では、この要綱と資料1について、このように進めていくことにします。会議については公開を原則ということで、非公開にする理由も見当たらないかと思っておりますので、公開にて進行させていただきます。

また、資料1の2について、議事録の作成ですが、今日の議長である私の署名と併せて、リアル参加されている庄子委員に議事録署名人をお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

庄子委員： 承知しました。

(2) 「(仮称) 青葉山エリア文化観光交流ビジョン」策定について

榊原座長代理： それでは、議事(2)「(仮称) 青葉山エリア文化観光交流ビジョン」策定について、資料2から5について事務局から説明をいただきたいと思っております。

交流企画課長： 資料2をご覧ください。はじめに「1 趣旨」についてでございます。青葉山周辺は、仙台のはじまりの地とも言えるエリアでございまして、歴史・文化・学術・自然などの資源が集積し、本市の基本計画においても「国際学術文化交流拠点」として、都市としての持続的な発展を支える重要な拠点と位置付けております。また、当エリアにおいては、青葉山公園や史跡仙台城跡の整備、次世代放射光施設の整備、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合整備など、各種プロジェクトが進行しております。この機会に、改めて、青葉山エリアの総合的な価値を高め、市民の皆さんはもとより旅行者や会議参加者など国内外に向けて魅力を発信することが重要と考えております。

そこで、この検討懇話会での議論等を通じまして、青葉山エリアの魅力や、回遊性の

向上に向けた、方向性を示すビジョンを策定しまして、交流人口の一層の拡大を図ってまいりたいと考えております。

続きまして、「2 ビジョン概要」です。「(1) エリアの範囲」については、「文化観光交流に資する各種資源が存在し、文化的・地理的に連携が有効なエリア」を対象としております。各種資源の例としては、※に記載のとおりであり、これらをつなぐエリアと考えております。具体的には、資料2の別紙をご覧ください。別紙の青く色付けした部分が今回対象とするエリアでございます。

「(2) ビジョンの構成案」としては、策定の趣旨、エリアのあゆみなどを記載しまして、ビジョンとしてまとめていきたいと考えております。

「3 想定スケジュール」は資料に記載のとおり、この検討懇話会を年度内に4回ほど開催し、市民向けシンポジウムやパブリックコメントを経まして、年度末の策定を予定しております。シンポジウムにつきましては、後ほど別途ご説明いたします。

最後に「4 備考」で記載しておりますが、本市では、青葉山交流広場に音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設の整備を進めることとしており、この基本構想を、別途立ち上げます検討懇話会の議論を経て、来年度の年央までに策定することとしております。この懇話会の概要は本日机上配布、Webの皆様にはお送りしました『「国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会」の設置について』という資料のとおりでございます。この複合施設は、エリア全体の交流人口拡大に資する重要な要素の一つでありますことから、そちらの基本構想の懇話会での意見と、当懇話会での意見とを相互に共有しながらそれぞれの検討を進めてまいりたいと考えております。なお、複合施設の基本構想の検討懇話会は9月7日に第1回目を開催することとなっておりますので、本日の議論の要旨等をそこで報告しますとともに、次回のこちらの懇話会にて、9月7日の懇話会の結果について皆様にどのような内容であったかご報告差し上げたいと考えております。

続きまして資料3をご覧ください。青葉山エリア周辺のあゆみをまとめたものでございます。はじめに、「(1) 青葉山エリアの起こり」ですが、皆様ご存じのとおり、青葉山は1600年に伊達政宗公が居城として仙台城を築いた地でございます。築城を機に周辺には城下町が形成され、大橋の近くには後に上級家臣の屋敷が配置されました。また、1636年の政宗公の死後、霊屋として瑞鳳殿が造営されたほか、二の丸や大手門も建造されました。

(2)をご覧ください。明治期以降につきましては、このエリアには多くの軍事施設が置かれました。明治期には仙台城が取り壊されたほか、二の丸などの建物なども火災で焼失しました。陸軍第二師団は昭和20年まで存続し、戦後も米軍の駐屯地として使用されるなど、このあたりは長らく軍事関係の施設が置かれていました。

(3)は、戦後の昭和期についてですが、昭和32年に川内地区の駐屯地が返還されると、東北大学がこの地へ移転し、更に東北大学は片平キャンパスから青葉山への移転整備を開始します。また、昭和41年にエリア一帯が文教地区に指定され、昭和43年には宮城教育大学も現在の地へ移転するなど、多くの学生が集う場所となり、「学都・仙台」の重要な拠点となっております。時代は前後しますが、昭和33年には東北大学植物園が開園、この園一帯は江戸時代には御裏林(おうらばやし)と呼ばれ、貴重な動植物が多く見られます。昭和47年には園を含む青葉山全体が国の天然記念物に指定さ

れました。

(4)でございます。昭和36年には、市制70周年記念事業として、青葉山公園三の丸跡に仙台市博物館が開館したほか、昭和56年には、宮城県美術館、平成3年には仙台国際センターが開館し、以降、本市の国際会議会場の中心となり、本市の国際化を推進するエリアとなっております。また、仙台城跡は、石垣の改修工事や遺跡発掘調査などからその歴史的価値が高まり、平成15年に国史跡に指定されました。

このように、このエリアには歴史や文化、学術など数多くの資源が集積していることがわかります。

3ページ目をご覧ください。上の地図は、1644年に幕府の命を受けて作成されたものです。地図上には「青葉山」の文字が見られ、また、本丸や二の丸、大手門も描かれております。下の2つの写真は、左が仙台城跡でございます伊達政宗公の騎馬像です。現在は今年3月の地震により破損したため、修復中となっております。右の写真は川内にある五色沼です。日本におけるフィギュアスケートの発祥の地と言われており、昭和6年には全日本選手権フィギュアスケート競技も開かれています。

4ページ目には、エリア内における主なトピックを年表としてまとめてございます。

続きまして、資料4をご覧ください。本市の各計画における青葉山エリアの位置付けをまとめたものでございます。

1ページ目の上の図の左側ですが、上位計画として「仙台市基本計画」があり、関連する分野別の計画として、仙台市都市計画マスタープランなどの計画がございます。青葉山エリアビジョンは、こうした計画を踏まえ、整合性を図りながら「青葉山エリア」に特化した施策の方向性を示すものとなります。

さらに、右側は、「青葉山エリアにおける事業等」を記載しており、このビジョンにより、エリアで進めている史跡仙台城跡整備や青葉山公園整備などの既存事業、エリア内の各施設やそれぞれの取組みなどに横串を通し、新たな連携を創出することを目指します。

また、その下ですが、エリア内に整備を予定している、音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点の複合施設の基本構想の検討も進められますので、先ほどご説明しましたとおり、相互に情報共有を図りながら、ビジョンの検討を進めてまいります。

1ページ目下の「2 市全体・政策分野ごとの基本的な計画等」から3ページ目の「3 青葉山エリアにおける事業等」にかけては、前述の仙台市基本計画や関連計画について、「青葉山エリア」に関連する部分を抜粋して掲載しております。個別のご説明は割愛いたしますが、これらとの整合を図りながら、ビジョンの検討を進めてまいります。

続きまして、資料5-1をご覧ください。青葉山エリアの現状についてご説明いたします。

エリア内の主な施設として、まず資料の左上「①宮城県美術館」です。昭和56年に開館し、近現代美術や東北地方ゆかりの作品、企画展示等も実施しています。来年度途中から令和7年度にかけて、リニューアルのため休館予定と伺っております。観覧者数は、特別展の内容などにより増減するそうですが、コロナ禍の令和2年度においても年間18万人を超える観覧者数となっております。

次に、資料右上の「②仙台国際センター」です。平成3年に開館し、平成27年には展示棟が新たに増設され、同年第3回国連防災世界会議が開催されるなど、国際会議や大規模学会などの開催施設として、本市のコンベンションの中心的な施設となっております。コロナ禍前の平成30年には年間500を超える催事が催され、30万人前後の方が利用しております。

左下「③仙台市博物館」です。昭和36年に仙台北東丸跡に開館し、国宝、ユネスコ記憶遺産の「支倉常長像」や、伊達家から寄贈された文化財など約98,000点を収蔵しております。大規模改修のため、令和5年度末まで休館となっております。コロナ禍以前の利用者数は年間10～15万人程となっております。

右下の「④仙台北城跡」です。仙台北城は1600年に伊達政宗公が築城を開始しました。廃藩置県の際に本丸は取り壊されるなど、多くの建物は失われてしまっておりますが、石垣を中心とした遺構の保存状態が良好であること等から国の史跡に指定されています。

資料中ほど、地図上の「⑤東北大学総合学術博物館」は、平成10年に発足し、化石や鉱物、考古資料など貴重な標本を多数保管、展示しております。また、「⑥東北大学植物園」は、昭和33年に設立され、藩政期には御裏林とされ、植物園を含む青葉山全体が昭和47年に国の天然記念物に指定されております。「⑦瑞鳳殿」は、伊達政宗公の霊廟であり、没後の1637年に造営されましたが、戦災により焼失し、昭和54年に再建されております。

続きまして資料5-2をご覧ください。青葉山エリアにおける進行中の事業です。

左上⑧の青葉山公園の整備です。藩政時代からの歴史的・文化的資源や優れた自然景観を生かしながら、市民や仙台を訪れた方が親しむことのできる「杜の都のシンボル」となる公園を目指して整備しております。青葉山エリアの玄関口となる「仙台北緑彩館」が令和5年4月26日に開館予定でございます。多くの方が憩い、集うことができる施設となるよう、観光交流拠点としての機能も備える施設となるよう整備しております。

関連しまして、⑨の全国都市緑化仙台フェアの開催です。昭和58年より毎年開催されている国内最大級の花と緑の祭典であり、本市では平成元年以来の開催です。青葉山公園や西公園などをメイン会場とするほか、まちなかエリア会場、東部エリア会場等が設定されます。

左下⑩の、仙台市と東北大学によるスーパーシティ構想です。大胆な規制改革を行うとともに、先端的なサービスの提供や複数分野のデータ連携を前提とした、先端的スマートシティ化を目指す事業に取り組んでおります。

右上の⑪次世代放射光施設でございます。この施設はいわば「巨大な顕微鏡」であり、物質を100万分の1mm単位で解析することができます。令和6年度に供用開始予定であり、様々な分野での活用が期待されています。また、施設の利活用が見込まれる企業などに対し、活用方法や本市の立地環境をPRするなど、誘致活動を行っております。

⑫音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設整備でございます。文化芸術の創造と発信の新たな拠点となる音楽ホールと、防災環境都市・仙台の「災害文化」の創造を担う中心部震災メモリアル拠点の複合施設を、青葉山交流広場へ整備いたします。

先ほど申し上げましたとおり、複合施設の整備基本構想を策定するにあたっての懇話会を9月7日に開催することとしており、この施設の整備により、周辺施設との連携のもと、新たな文化観光交流ゾーンの形成や広域からの集客、都心部も含めたまちの活性化が期待されます。

最後に③史跡仙台城跡整備でございます。令和12年度までの事業計画期間においては、調査、修景、登城路整備を3本柱として整備を行うこととしており、大手門復元に向けた基礎調査等も進め、史跡仙台城跡の魅力発信と郷土教育の促進に取り組むこととしていきます。

次に資料5-3をご覧ください。本懇話会では、青葉山エリア内の回遊性や、青葉山エリアと都心との間の回遊性の向上についても検討していきたいと考えており、関連する基礎資料としてお示しするものでございます。

青葉山エリアへの、主に仙台駅からのアクセスについては、地下鉄東西線、路線バス、観光スポットを循環する「るーぶる仙台」、自転車、徒歩等が想定されます。それぞれの運行頻度や所要時間については資料上部の表のとおりでございます。

また、地図上には、路線等を示しており、このうち、紫色で示している「るーぶる仙台」は、今年3月の地震の影響で、現在は紫の点線で示す迂回ルートで運行しております。また、仙台市が実施するコミュニティサイクル事業のDATEバイクのポートは赤い丸で示しております。

最後に資料5-4をご覧ください。青葉山エリアに関する統計データでございます。まず(1)観光客入込数についてです。観光庁の統計に基づき、市内の観光施設等の入込客数を調査集計したものでございます。観光地点ごとにカウントするため、一人の観光客が複数回カウントされる場合があります。

①のグラフをご覧ください。仙台市全体の観光客入込数の推移です。本市全体の観光客入込数は、平成23年以降増加傾向をたどり、平成27年に過去最高の2,229万人を記録し、それ以降令和元年までは横ばいで推移していましたが、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により激減しました。

②のグラフは、青葉山エリア内の観光施設、具体的には仙台城跡、瑞鳳殿、博物館に絞ってグラフにしたものです。こちらも平成23年以降、概ね逡増しており、令和元年は約101万人を記録しました。

③は主な観光地点・行催事・イベントにおける観光客入込数でございます。コロナ禍の影響のない令和元年をお示ししており、こちらを見ますと、青葉山エリアは上位5位に位置し、本市の主要な観光地となっていることが分かります。

続いて(2)国際会議開催状況についてでございます。ここでいう国際会議は、四角囲みの中に記載しておりますJNTOの定義に従った会議としていきます。

①のグラフのとおり、本市全体の国際会議開催件数は、平成27年に国連防災世界会議の開催や地下鉄東西線の開業により急増し、過去最高の221件を記録しました。平成28年以降は120件前後で推移したものの、令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響により激減しました。この傾向は②の参加者数の推移についても同様でございます。

ここから分かりますとおり、本市における国際会議の会場は「国際センター」及び「東北

大学」が開催件数及び参加者数の大半を占めており、青葉山周辺エリアは本市の国際会議開催拠点となっていることが分かります。

③はコンベンション開催実績として、これまで開催してきた大規模な会議を掲載しており、表の左側は政府系国際会議で、右側は学術集会となっております。

参考資料1をご覧ください。こちらは、地下鉄東西線が開業する前の平成24年1月に、来るべき東西線開業を見据え、この地区が本市の発展において果たすべき役割や機能強化の方向性等をまとめたものでございます。宮原委員や榊原委員もこの懇話会に委員として就任いただき、議論を重ねていただきました。

このエリアに関し10年ほど前に行われていた検討の経緯として、今回参考としてお配りしたものでございます。資料の3ページ目のA3横長の資料には、機能強化のイメージ等をまとめており、コンベンション機能、観光交流機能、ミュージアム機能の3つの機能の方向性などが示されております。参考として付けさせていただきました。

榊原座長代理： ありがとうございます。この懇話会は年度内4回の開催で、プラス市民シンポジウムを開催すること、あわせて、音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設について検討する「国際センター駅北地区複合施設基本構想に関する懇話会」との双子のような関係だということで、会議の内容については相互に共有するということを確認させていただきました。

あわせて、青葉山エリアの変遷、伊達政宗公が城を築いたのは1600年ですので、もう420年経っておりますが、そこからの変遷を俯瞰したうえで、現在ある施設の入込客数や、今後検討されている事業や構想についても紹介いただきました。また、統計データも紹介いただき、10年前に宮原座長と一緒に私も委員を務めさせていただいた計画の内容についても触れていただきました。

ここからは、1時間程度時間を頂き、委員の皆さんと議論をしたいと思います。資料2のとおり、ビジョンの策定目的は、交流人口の一層の拡大を図るということと、概ね10年後を見据えるということが前提条件になろうかと思えます。さらに、エリアの価値や魅力、回遊性の向上に向けた方向性を示すビジョンということが趣旨に盛り込まれておりますので、こうした点を意識しながら、今日は1回目ですので、それぞれの分野でご活躍されている方たちが委員でいらっしゃいますので、それぞれの視点から、このエリアの魅力あるいは課題、もっとこういうことをこの懇話会でも議論すべきではないかとか、いろいろなことでご発言いただければと思います。委員は9人ですので、だいたい一人5分ぐらいということを少し意識していただいて、まずは資料への質問でも構いませんので、どなたかからご発言をお願いいたします。ウェブの方ははっきり手を挙げていただけると、私も画面は見えておりますのでご指名することができます。では、どなたかいかがでしょうか。では、宮原座長、お願いいたします。

宮原座長： 仙台市で様々なエリアごとのビジョンを作っている中で、いつもなんとなく確かめておきたいことはエリアの範囲についてです。例えば資料2の別紙では、広瀬川の蛇行しているところから仙台城跡に向けてグリーンで覆われていますが、一部ぼかしてある部分もあると思います。このエリアの捉え方を、今回議論をしていくにあたって、どういう範囲で頭に置いて議論すればいいかということを確認できたらと思います。広瀬川できっちり分かれている感じでもなく、例えば西公園や瑞鳳殿も入りますが、川を挟んでこの蛇行している地形を含んでいるかと思いますが、一方で、広瀬川から平地の

ほうは仙台の都心というような位置付けでも括られていると思うので、どのように捉えたらよいか、ご説明をお願いします。

交流企画課長： エリアの捉え方についてでございます。この青く塗って縁がややぼやけている部分がございますが、このエリアの基本的な考え方としましては、資料2の「2 ビジョン概要」の(1)エリアの範囲に記載いたしました「各種資源が存在し、文化的、地理的に連携が有効なエリアを対象とする」という表現でございますが、まさにこのエリアは歴史、文化、学術、また、広瀬川という自然も魅力の一つと考えており、そういった観点を踏まえたこと。また、冒頭の市長の挨拶にもございましたが、都心と隣接するという部分についての考え方。これらを踏まえ、この青く色づけた部分を今回の対象としたと考えております。都心については、仙台市の基本計画で資料5-1で示している黄色く塗っている部分、ここが既に定められていますので、ここと隣接しつつ、先ほど申し上げたような考え方に沿って、青い部分を今回、青葉山エリアとしてはいかがかと考えた次第です。

宮原座長： ありがとうございます。資料5-1になると、必ずしもきっちりと境があるわけではなく、また、それぞれの機能があるところは、例えば青葉山エリアだし、それから一方で都心の機能があれば都心であるというような形で、柔軟に考えていくという形でよろしいわけですね。

交流企画課長： そのとおりでございます。はっきりと線をつけていないのも、今、宮原座長がおっしゃったような趣旨を踏まえてございまして、必ずここで分けなければいけないということではなく、まさにそのあたりは議論を進めながら、もしかしたらもうちょっとこのエリアはというご意見があれば、そういった形でビジョンをまとめていければと考えております。

榊原座長代理： 仮でこのエリアという形で出させていただいて、議論を深めつつ、このエリアがもう少し広がったほうがいいのかということも有りえるということですね。そういうことを前提に今後、議論ができていけばいいと思います。ありがとうございます。

藻谷委員： 今のエリアの話で質問してもよろしいでしょうか。一言忘れていましたが、仙台育英の優勝おめでとうございます。私は高校まで山口県で育ちまして、聖光学院が下関国際に勝ったらもっと面白かったと思いますが、仙台が強すぎました。ベスト4の2校が東北だったということで、地域振興専門の人間として「ついにやったか！」と思いました。

よそ者としてこのエリアを歩いて、今のエリアの範囲ですが、瑞鳳殿と仙台城跡は歩いて行けないですね。直接歩く広瀬川の右岸の道は存在しないですね。一体のエリアと言っても、実際はなかなか一体性がないのかと思われました。なんでも道を付けろとは言いませんが、歩いてつながっているといいなと、つながっていないことは何か理由があるのかと思ひまして。これをつなげて歩くような道を作ってもいいのか、それは作ってはいけないのかということ、エリアの捉え方が変わらなうと思ったので質問させていただきます。

交流企画課長： 確かに瑞鳳殿への徒歩のルートと言いますか、このエリア内の回遊性という意味では今後、議論していかなければいけないところかと思っております。おっしゃるとおり、無いのは現状でございますが、まさに将来のビジョンを検討していくにあたって、必ずしも全てできることだけを議論いただくということではなく、今後こういうふうこのエリアが発展あるいはまちづくりが進められていったらいいのではないかと

視点でもご意見を賜ればと思っておりますので、まさに藻谷委員のような外から見た、仙台のまちをこうしていったらいいのではないのかというご視点でのご意見なども頂ければと考えております。

藻谷委員： ありがとうございます。一言コメントすると、私は歩くのが大変好きでおそらく仙台の人もそうだと思います。エリア周辺はあまり人が住んでいないので、犬を散歩している人なども少なく驚きましたが、観光客は歩きます。それで、今のところもそうですが、これは文化財などの規制がなく、歩道だけでも作れるのであれば、歩ける道でもう少しネットワークするとものごすぐ歩く人が増えるだろうと思います。ただ、再確認ですが、地形上段差が大きいので付けていないというか、誰もそれに道路を付けなかったというだけで、何か文化財保護上の理由により付けられないとか、そういう理由があるわけではないのですね。逆にあまり開発しないほうがいいですが、変に道路が通って、交通量が多いよりよっぽどいいですが、何か文化的な理由があるわけではないのですね。

文化財課主査： 文化財課でございます。仙台城跡と瑞鳳殿の部分につきましては、特に文化財の規制があって道が作れないとかということではなくて、仙台城の西側に深い谷があるのと、谷を渡って先の瑞鳳殿側の比高差が非常にあるという部分がありますので、これまでそれを結ぼうと考えた方がいなかったということだと思います。

藻谷委員： ありがとうございます。これが例えばカナダのまちやヨーロッパのまちなどでも、おそらくここに歩行者専用のあまり景観を壊さないような木の橋を作るとか、逆に名所にするようなイメージがあるものですから、可能なのであればいずれ提言させていただきます。

深澤委員： 今のご意見のことにに関してですが、瑞鳳殿は政宗公の墓所であり、仙台城跡は城跡だったわけです。観光客の視点から見ればつなげればよいということもあるかもしれませんが、政宗公がここに墓所を決めたということは、それなりの聖地であるため、つなげる必要はないのではないかなと存じ上げます。歴史的経過が無視された形になりますので、観光的な目的でそこを考えるとずれば、歴史的な背景やその置かれた意味なども考える必要があり、それを考えていくことも重要とご意見を申し上げたいと思います。

藻谷委員： ですのでそれを確認したかったのですが、一言申し上げますと、観光視点で言ったのではなく、私が仙台に住んでいれば散歩コースとして歩きたいと思ったところです。私は観光の視点から申し上げているのではないということを最初に確認しておきます。地域振興全体についてであって、観光プロモーターではありませんので。仙台に住んでいる人が普通に、車が通るのは論外だと思いますが、川沿いに目立たないように歩道が作ってあったら、そこを散歩するというのは健康的な生活なので、そういうことがしたいと思います。ただ、文化的な規制があるのであればそのように作るわけにはいきませんので、そのことを確認したかったところです。観光視点で言っているわけではありません。

深澤委員： わかりました。瑞鳳殿は瑞鳳殿の入口があるので、そちらを歩けばよろしいかなと思います。

藻谷委員： 正面から入るべきだということですね。瑞鳳殿に裏から入れとは言いませんが、瑞鳳殿の正面から入るとして、瑞鳳殿側につながっていると、歩くコースとしては瑞鳳殿側に住んでいる人もお城には行きやすいですし、いいのではないかと思います。瑞鳳殿

に観光客が入りやすくするために道を作れと言っているわけではなく、住んでいる人が散歩するという観点からです。

榊原座長代理： 藻谷委員の意見はわかりました。深澤委員からもまだ続きがありましたので、続きのご意見はよろしいですか。

深澤委員： 今のとは別に、エリアとの関係も含めてお尋ねしたいのですが、例えば、音楽ホールが建設されるということがありますね。音楽ホールが建設される場合は、国際センターの北側になります。ただ、音楽ホールというのは、近くの川内キャンパスに萩ホールがありますのと、西公園の先のところ定禅寺通の突きあたりに市民会館もあり、それなりに同じような機能を備えた施設になると思います。同じエリアの中に同じような機能を持つものがあって、この音楽ホールがどの程度のものになるのかまだよく分からないので、色々なことを申し上げられませんが、規模によっては、例えばこれは復興のセンターも備わるということですので、ある意味オペラホールのようなものまでは行かないだろうと想像します。そうしますと、市民ホールとか音楽ホールとか、ちょっと中途半端というか、同じようなものができあがって大丈夫なのかなと。近隣住民としては音楽ホールの建設は楽しみにしておりますが、そのあたりは懸念する部分でもあります。

そうしますと、例えば西公園の先の広瀬川の反対側のところ、都市部の部分も青葉山のエリアに含まれる部分にもなるのかどうか。あるいは、エリアとしてこれで見ますと、大崎八幡宮は離れますが、文化財的なものとしては仙台の中でも重要な立場に位置していると思いますので、逆に言ったらそれもちょっと引っ掛かるでしょうし、あと川内の亀岡神社も入っているのではないかとこのこともあります。それから、全体的な地図で見ますと、三居沢の水力発電のところに電力館がありますが、少し青葉山駅から離れますが、それも含めておかないと、観光というか、見るところにおいては必要な、特に青葉山の東北大学とも関係しており、大事な文化施設だと思います。東北初めての水力発電の場所ということですので、そういうふうなものも入れなければいけないのではないかとこのこともありますので、青葉山のエリアをもう少し、目的を持ったニーズによって限定するというのを考えていかなければいけないのではないかと思います。

先ほど市長もテーマパークということをおっしゃっていましたが、こうやって見ますと、できている建物は統一感に欠けると言えますか、みんなバラバラなものが中途半端に建築されつつあるのではないかと懸念しております。公園センターも、目的がどういうふうなものなのかなと、明確な目的が少し欠けているように思っておりますので、もう少し統一感を持ったシナリオをきちんと全体的なものを考え直していかないと。ここですとお城が目的と言いますか、お城中心にした城下のふもとにあるという所になりますから、お城のことを、仙台城をきちんと整備しているところを中心に考えていくことも大事かと思えます。

榊原座長代理： ありがとうございます。3点ありましたが、音楽ホールは、そもそも今のエリアの市民会館などを含め、同類の施設があるのではないかと。そのため、音楽ホールの規模感などを知りたいということでもよろしいですか。二つめは、先ほどのエリアについては、藩政期の施設等、大崎八幡宮や亀岡八幡宮も含め、歴史的な結びつきが強い施設もあるので、こうした施設もこのエリアに入れておく必要があるのではないかと。その際にお城の御膝元という、そういうエリアだということの一つ入口にしてみてもどうか、ニーズによって限定してはどうかというご意見でした。みんなバラバラに建っているというご指摘もありましたが、まず音楽ホールで発言できる部分で事務局からお願いします。

中山次長： 文化観光局の中山でございます。まず音楽ホールの件ですが、来週9月7日に第1回目の懇話会を始めるところですので、今の段階で多くは語れませんが、3年ほど前の「音楽ホール検討懇話会」で、基本条件などを検討しております。その中では、2,000席規模の大ホールと小ホール、練習室のほか、公演がない時でも皆さんが楽しめて文化に触れられるような交流ゾーンなどがあればいいとされています。音楽ホールは文化政策の拠点として構想されており、市民会館のような貸館とは違い、仙台は特に音楽が盛んで、いろいろな資源がございますが、それらをさらに発展させる、あるいは新しい文化を創造していく、そういう拠点でございますので、位置付けとしては市民会館などとは全く違うものだと思います。ちなみに市民会館も近くにありますが、音楽ホールの整備後は、市民会館のホール機能については廃止をする方針でございます。

榊原座長代理： ありがとうございます。先ほど私から双子の懇話会だと言ったので、音楽ホールについても情報を共有させていただきながらと思います。では、ホール以外の部分についてお願いします。

高島次長： 文化観光局の高島でございます。2点目、3点目の深澤委員からのお話についてです。冒頭、宮原座長からエリアの捉え方は、あえてきっちり線を引くのではなく、議論の発展の中で柔軟にということ、榊原座長代理からもありましたが、まさにこのエリアは様々な資源があって統一感がないと言いますか、それぞれの目的によってそれぞれの施設の連携の仕方や結びつきは変わってくるだろうと思われま。それは一つの色ではなく、歴史、文化、自然、あるいは大学のいろいろな資源であったり、ビジネスであったり、そういった目的によってエリアの楽しみ方、過ごし方が違ってきます。ですので、このエリアでの時間の過ごし方や、どういう目的でここを歩くかなど、ここに書いていない施設も含めて、どういうつながりがあるかという検討が必要であると考えます。例えば、西公園の先に定禅寺通がございます。そこから国分町という東北最大の歓楽街があり、そういう所との回遊性といった話も出てくるでしょうし、三居沢というお話もありましたが、議論の中でぜひこういう資源のつながりがあるとか、こういうものとのネットワークがあるなど、そういう議論の広がりの中でこのエリアを捉えていくことで、まちづくりの方向性と言いますか視点が出てくるのかなと思われま。ぜひそういう視点でのご意見を頂きたいと思っております。

榊原座長代理： ありがとうございます。まだご発言されていない委員の方、いかがでしょうか。

庄子委員： まずこのエリアを見たときに、少し回遊性が弱いのかなと感じました。なぜかと言いますと、市民の方が行きやすい場所、例えば美術館や西公園、博物館など、観光客で言うと仙台城跡ですが、そこから奥を見ると、東北大学という冠がついていて、市民が利用してもいいのかなと。一般的には開放されていますが、奥に行くほど、市民に開かれた場ということが市民に認識されていないのかなと思いますので、少し専門性が高まっていく部分もあると思いますが、市民に開かれた場だということを、しっかり整理して情報発信していくことも大事なのではないかと思います。特に都心から入ってくると、ここは行き止まりになってしまいます。ですので、ここにも行っていいんだということをアピールしていく必要があるのではないかと思います。

また、今、様々な議論が出ていましたが、私もこのエリアはいろいろなものがありすぎて、逆にエリアのビジョンを作るときに、何があるからというのを押し出しにくいと考えております。そういった意味で言うと、ここに何があるかというのをPRするのはすごく難しいので、どんな時間を過ごせるかがすごく大事で、モノ消費ではなくコト消

費などと言いますが、上質な時間というか洗練された時間というか、そういったことがもしかしたら統一の括りであり、その中でもいろいろな時間を、ストーリーを示していくのがいいのではないかと思います。

榊原座長代理： ありがとうございます。いろいろなものがあるということで、上質な時間を過ごせるということが一つ、ビジョンの大きなキーワードを頂いたような感じがしますし、東北大学に行っているのかどうなのか、確かに学生のキャンパスだと思ってしまうので、実はオープンになっているということも含めて、情報発信が必要ではないかというご指摘を頂きました。その他はいかがでしょうか。

紫富田委員： 今、回遊性がないというお話がありました。私たちが会議を運営するときにはだいたい国際センターですが、東西線ができてから、仙台駅から東西線に乗って、国際センターに着きました、会議がありました、終わりました、ということで、すぐ帰ってしまうようになって、せっかく仙台に来たのに、このようないい所を楽しんでいない。交通の便が良くなったがために、行ってすぐ帰るみたいな感じになってしまっているのが大変残念だと思っております。先ほど仙台市の分野別の計画とエリア別の計画をお伺いしていて、この青葉山エリアは、分野別の計画も全部含んでいて、大変凝縮された地域だという、この青葉山の魅力を改めて認識しましたので、これだけ凝縮されているコアな地域だということをまずアピールすることと、そこから目的に応じて、ここに行きたい人はこれがあります、ここへ行きたい人はこれがあります、というような個別の魅力を広く打ち出していくことが必要だと思います。

もう一つは、これはいつも言っているのですが、今日の会議もオンラインで参加の方もおられますが、コロナによって会議がハイブリッドになりますと、あの会場に行ったら会議のついでにこんな楽しみがあるぞと思ったら、無理をしてでも現地に行くのですが、そうではなかったら、今回はオンラインでいいかとなってしまいます。仙台で開催すると、オンラインで参加した人も次は現地に行きたくなるような場所だということを実はアピールすることはとても大事です。例えば医学会で言うと、併設の展示会を行うスポンサーさんは現地の会場にたくさん参加者が来てくれないと商売になりません。オンラインばかりで会場に人がいないと次は出展をやめようか、となります。またコンベンションの意義は、人が集まって交流することによっていろいろなイノベーションや文化が生まれるということも大きなポイントですが、オンラインですとなかなかそれができないので、主催者としてはハイブリッドの会議であってもなるべく現地にきてほしい、ということになる。そうすると、コンベンションの開催地に魅力があるということは非常に大事です。せっかくここは魅力が凝縮している地域ですので、仙台で開催すると現地にたくさんの方が来られる、結果として主催者もスポンサーも地元もよろこぶ、ということを実感していただくことはコンベンション的には重要だろうと思っております。

また、青葉山地区だけでなく都心に人が行かないと夜のお金が落ちない、国分町でお金を落としてもらいたいのにあまり行かないということなので、そこに人が行ってもらう工夫をするためには、コンベンションの主催側の努力だけでなく、受け入れる側にも、コンベンションの人たちが足をのばして来てもらったらまち全体が盛り上がり、自分たちも潤うということを実感してもらおうということが大事なのではないかと思っております。

榊原座長代理： ありがとうございます。交通の便が良くなったら逆にすぐ帰ってしまうという指摘

と、せっかく来ていただけるのであれば、目的に応じていろいろな魅力が凝縮されているからこそいろいろな体験を提供できる場であるという話と、都心にどう人を流すかという工夫が必要ではないかというご指摘を頂いたと思います。そのほか、いかがでしょうか。

姥浦委員： ほかの皆様方がおっしゃったこととかなり似たような話にはなりますが、一言だけ申し上げますと、今、ご紹介いただきましたとおり、考えている中でかなり多様な機能があるというのは皆様方と同じ意見です。これをどう空間的に、機能的にうまくつないでいくのかというところが、おそらくこれからの最大のポイントで、そのときに空間的にというのが、最初にありましたが、道を作るのかそれとも何か整備するのか。いずれにせよ今、つながっているということが分かりづらい状況になっているものを、どううまくつなげていくのかということが一つあるかと思えます。

例えばですが、今は止まっていますが、博物館の南側からお城のほうに上がれると思えますが、あそこからお城に上がれるということは、かなり分かりづらいです。ああいう所がもう少しうまく整備されていくといいのではないかという気もしますし、どこまで何をするのか、具体的に何をするのかというのはまだまだこれからだと思いますが、博物館とお城は非常につながりが深く、そういうところをどういうふうに進んでいくのか。それ以外の施設もそうだと思いますが、先ほどどなたかもおっしゃいましたとおり、歴史や自然など様々なファクター、ストーリーに応じたつながり方があると思うので、それらを機能的にどう考えていくのかというところが、まず一つ大きいという気がしております。

その際に、これも出ていますが、一つめは、中の回遊をどうするのかということですが。これは基本的には徒歩中心になると思えますが、場合によっては、最近出てきているような新しいモビリティなどを使っていくということも、スマートシティではないですが、あるのかもしれませんが。それから、もう一つは、外との関係で言うと、今も話に出ていましたような、中心市街地とどうつないでいくのかということです。比較的駅とのつながりは、地下鉄でそれなりにですが、駅まで真っ直ぐ帰っていただくというのは、先ほどのお話と全く私も同意見です。国分町なりにどううまく寄っていただくのか、その回遊性をどう作り出していくのかという、外の回遊性をどう作っていくのかというところがもう一つのポイントかと思っております。

一つだけ、あまり専門ではありませんが、一市民として申し上げますと、あそこは文化的な施設もいろいろありますが、自然が実はすごく豊かで、仙台にない、ほぼ唯一というところなんですけど、段丘の中で川があるのはあそこだけです。仙台の中で非常に貴重な水のある空間ですし、それでかつ山の麓のすごく緑がたくさんですが、そこに積極的にアプローチできるような形になっていないというのも非常にもったいないと思っております。上から眺めることができるのか、下から全体を見ることができるのか、中に入って勉強することまでできるのですが、それをもっと使って、アクティブに使うようなことがあってもいいのではないかという気もしています。おそらく大都市の中で、都心に一番近くて、自然に関するアクティビティができて、かつ文化的なものもありというのは、本当にここしかないと思いますので、そういう特徴をどうこれから活かしていくのかというところが大きなポイントかと思っております。

榎原座長代理： ありがとうございます。多様な機能を空間的にも質的にもどのようにつなげるかというご指摘から、自然の豊かさが最大の魅力なので、それをどう活かしていくかという

ご指摘を頂いたかと思えます。

高山委員： 今の姥浦委員とも共通しますが、広瀬川は中心市街地とこの青葉山を分断はしていますが、逆に観光で発達している都市はまさに川があると思うんですね。仙台の広瀬川という、都心の西側にはなりますが、まちには非常に近いところにあるので、これをどう有効に活用していくかということが大事なポイントになると思えます。

あとは、MICEでいらっしゃった方、観光でいらっしゃる方、日常で利用される市民の方、いろいろその人の立場によって利用される施設も違いますし、そういったところで、庄子先生からお話がありましたが、ストーリーを作るとか。あとはソフト面、運営面であのエリア全体を、例えば民間に委託して全体をマネジメントする、その中でその時々様々な企画やイベント、自然の四季彩などを紹介しながら、より多く地域を楽しんでいただくという、ハードだけじゃなくソフト面の仕掛けが必要かと思っています。

姥浦先生がおっしゃっていたように、あのエリア内の回遊性をどうするかという交通手段と、外とをつなぐ交通手段というのが必要で、何人かの委員の方は観光は歩くとおっしゃっていますが、健康な方だけではないので、ご高齢になるほど歩けない方もいます。行きたくても歩けない、そういった方たちにも優しく移動できる交通手段は非常に大切になってくると思っています。あと、相反するかもしれませんが、あのエリアは確かに仙台発祥で歴史的にも大切なエリアだと思っています。皆さんも多分観光客の方たちもそういう認識があって、政宗公、仙台城跡という、やはりお城を期待していらっしゃってがっかりされるということがマイナスの要素だと思っています。ただ、経済界でもお城を作れとか、何か復元したらいいのではないかと様々な意見がありますが、やはりそこは史跡指定という意味合いをよく理解されていないからだと思いますので、史跡指定されたことによって青葉山、仙台城跡がどのような状況なのかということをしっかり発信していく必要があると思うのと、そうは言っても、青葉山エリアの場合、仙台城跡というのはやはり大きなポイントになると思うので、仙台城跡の魅力を発信するポイント、アピールのポイントを変えていくというか、お城をイメージさせない、ブランディングとかプロモーションというのが必要になってくるのではないかと感じています。

榊原座長代理： ありがとうございます。最後に第一巡目、松田委員からもお願いいたします。

松田委員： すみません、最後になりました。皆さんおっしゃっていたことは全てよくわかるなと思いつつ伺っておりました。私も外から感じたことや意見が中心になるとは思いますが、まず、このエリアはすごくスケール感が大きいですね。一つ一つの土地利用の単位が大きくて、国際センターにしても、博物館のあたりにしても、公園センターにしても、1施設の中を歩くだけでもかなり大きいというところがあります。しかも、性格の違うところを、歩き上手な方は歩けると思いますが、そうじゃない方、ピンポイントで目的があって、その目的から目的までがちょっと遠いというようなときに、じゃあまた今度にしようかという感じで挫折してしまうのではないかと思います。

全体について一つ思いましたのは、打ち出し方として、いわゆる青葉山エリア全体のイメージ固めと、そこが何であるということを発信していくのが一つ。その中で、いくつかそれをさらにブロックに分節して見せていくのだろうと思いついて、それが地理的な分け方が一つあると思えますし、目的別の分け方が別途あると思えますし、機能とか。あと、組み合わせたいものという提案型的なものをいくつか作ってもいいの

ではないかと思いました。そうすると、そうやって分けたブロックをどのようにいい感じに移動できるのか、その中で佇む場所が設定できるのか、ということを考えていくことになるのだろうということですね。

あとは、あまり目的を持たずに、なんとなく今日は都心ではなく青葉山エリアで過ごしてみようか、休日にふとそっちに行きたいな、というような需要が増えていくと、魅力づくりということには成功したことになると思っています。私も仙台を訪れたときに、例えば京都から新幹線で行くと、京都→東京、東京→仙台で、やっと一息つけるという感じで仙台駅で降りますが、仙台駅の周りでお茶をするより、東西線に乗ってしまっただけ国際センター駅まで行って、駅の上にカフェがあるのは素敵ですよ。そこで一挙に仙台の街並みが見えて、広瀬川が見えて、風を感じられて、私は個人的にはあのスペースがすごく好きなのですが、そのようなイメージがあると、じゃあそっちで休憩しようとか、出てくるような気がします。すごく大がかりなものではなくても、ちょっとしたお気に入りになりそうな、ぼんやりできる場所みたいなものを点在させていくということもあるのではないかと思います。

それらの見せ方を、どこかの段階で、デジタルマップなり観光インフォメーションに置くなり、場所の楽しみ方のガイドのようなものを地図とかトピックとか。仙台でいろいろな場所の体験の仕方、自然も含めて地質、地形、歴史など、いろいろなグループが活動されていると思いますので、そういうことを統合していくようなソフトの面で、既存の仙台の皆さんの知見を収集して、それをこのエリアの魅力発信と併せて公開していけるような、そういうメディア、地図系のメディアが作れたりするといくと勝手ながら思っていたところです。

最後に一つ質問ですが、親水空間の話です。防災上問題があるとか、そのあたりの使いにくい事情があるのか、質問としてお願いします。

榊原座長代理： ありがとうございます。青葉山エリアというのは相当大きいですよ。先ほどの定禅寺通エリアは都心にあるエリアの中の一部のエリアで、720メートルぐらいのエリアですが、こちらは2キロとか3キロとか、そのぐらいのスケール感を同じエリアと言っているのです。今、松田委員からご指摘があったように、土地利用のスケールが大きいのです。これを地理的に地形的にもブロックに分けていく、あるいは目的ごとに分けていくという考え方もあるのではないかとご指摘を頂きましたし、楽しみ方ですね。庄子委員もおっしゃっていたように、楽しみ方をどのように示していけるかということも重要だし、具体的なアウトプットの仕方としてメディア、マップなども含めてというようなことも頂きました。

最後に質問を頂きましたが、親水空間が使いにくいような状況になっているのは、何か理由があるかということだと思いたしますが、事務局、いかがでしょうか。

高島次長： 親水空間、要するに広瀬川のに親しめるいろいろな取組みは、何か規制があるのかというご趣旨でのご質問かと理解いたしました。申し訳ございません。本日は河川関係のセクションの職員が出席しておりません。間違ったことを申し上げられませんので、担当課に伝えまして、後日、メール等で回答できるようにいたします。ただ、河川関係は県の所管になっている部分もございまして、仙台市が直接所管できていない部分もございまして、そのへんも含め、後日メールで回答させていただきます。

松田委員： はい、わかりました。

榊原座長代理： 15分か20分ぐらいまだ時間があります。皆さん、一巡していただきましたので、こ

こから今まで出てきた発言の中で、それを意識されて、こういうところを話したいとか、言い足りなかったというような部分を、お一人1~2分しか時間がありませんが、二巡目はいかがでしょう。では、藻谷委員、よろしくお願いいたします。

藻谷委員： 皆さんがおっしゃっていただいたので。歩けない人もいますと思いますが、今、本当に歩く人がコロナで東京ではすごく増えまして、改めて見直すというか、歩かないとやっていられないので、歩く習慣の人が非常に増えています。仙台もおそらくそうだと思います。

東北大学からと八木山からと全く別の日に仙台城跡を歩いて国際センターまで行ってみました。皆さんあまりそういうことをされないとしますので。歩いてみた結果として、どちらも地下鉄で上がれるじゃないですか。東北大学からは下りてこれるので、上り坂と違って楽は楽です。それで歩いてみましたが、先ほど東北大学は行ってはいけなみたいなことをおっしゃっていましたが、向こうから下りてくるとそんなことはないのですが、一言で言うと、東北大学から仙台城跡に歩く人というのは誰も想定していません。すごく良いコースなのにほぼ歩く人はいません。最大の理由は、お城の手前に歩道が全くないということです。怖くて歩けないんですね。それは歩道を付けろと言っているのではなく、つまり従来、大学とお城をつないで歩く人がいるという想定のみちづくりになっていなかったんだということが分かり、もったいないと思いました。それから、八木山から竜ノ口溪谷の上の橋を通過して、あれも立ち入り禁止ですから、でも橋の上から見えるんですね。仙台城跡まで歩いてみましたが、これも決して悪いコースではないと思います。ですが、やっぱり途中で歩道がなく、歩くという人を想定してなかった。

さっき瑞鳳殿という話をしたのも、そこを人を通して儲けようと言っているのではなく、つながって歩きたい人は住民にいますよねと、住民が楽しんでいて観光客も必ず楽しむので、観光客のために何かを作る必要は一般的には僕はないと思っていて、住民が普通に歩くコースをもう少し整備するといいなということが、私が歩いてみての感想です。

榊原座長代理： ありがとうございます。そのほかにいかがでしょうか。紫富田委員、よろしくお願いいたします。

紫富田委員： 今、高山委員が全体をマネジメントする機能が必要だ、ソフト面の機能が必要だとおっしゃったのは、大賛成です。コンベンション、MICEの立場から言いますと、例えば仙台国際センターのメインホールが1,000席しかないので、今後、音楽ホールが2,000席規模ということであれば大いに期待しています。例えば開会式を音楽ホールで、そのあと分科会を国際センターで、パーティーをユニークベニューでやる、たとえば騎馬像の前で、というようなことを考えたときに、こちらに交渉して、あちらに交渉して予約を調整してということになると、主催者の負担になるし、私たちもサポートする側としてハードルが高くなります。そういったもの全体をマネジメントする機能、よくDMO、Destination Management Organizationと言われますが、そういう機能があれば、と思います。今回この一週間はこういう会議が開催されるので、地域全体で協力しましょう、市民の方々も協力してくださいねとか。協力だけでなく、今度こういうテーマの国際会議があるから、市民の人たちもこのテーマを勉強しましょう、市民公開講座をやってもらいましょう、という感じでまち全体で盛り上げられる。せっかく偉い先生が来ても一部の会場で一般の人たちが知らないうちに会議をして、また知らな

うちに帰ってというのではなく、世界中のすごい人たちが実は今仙台に来ている、こんなテーマを話し合っている、というようなことが地域関係者全体で共有できればいいと思います。そういうマネジメントの機能は必要だと思います。

榊原座長代理： ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。はい、深澤委員、お願いいたします。

深澤委員： 広瀬川の自然環境ということなので、実は青葉山公園整備の公園センターを結構期待していましたが、あそこにはあまり川に関するところが、ビデオか何かは流れるようだとは聞きましたが。実際に大橋のところは、3、4年前に私が申し上げましたが、鮭が上ってきたりするものですから、鮭の稚魚の放流などのイベントもできるような場所だろうと思います。それから、今年の夏も終わりでしたが、ホテルがたくさんいるところがありますし、自然環境を大事にするためには、例えば、五色沼の所から車を入れないでほしいとか、いろいろそのような環境整備。そこから歩ける範囲だったら歩いてもらいたいと思うところがあり、駐車場の位置などもすごく気になっているところです。音楽ホールを、駐車場をつぶして作るのであれば、そこにある駐車場の車はどこに行くのかなども気になっています。何かを建てるのではなく、その周りの付帯状況をきちんと整備したほうがいいのではないかとすることがすごく気になっておりますので、そのあたりをお考えいただければありがたいと思っています。

榊原座長代理： ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

宮原座長： 先ほど藻谷委員がおっしゃっていたことにも関わりますが、結構東京の人は、私も東京で暮らして長かったのですが、すごく歩くんですよ。だけど、仙台に来てわかったのは、仙台の人はあんまり歩かないというか、すぐ車に乗ってしまうというか、車社会だなというところがあります。ただ、これからコロナのこともあり、いろいろな人が健康づくりであるとか、まちを気軽に歩きたいとか、そういったニーズが高まっていると思うので、全体的に、特に市民の方たちが青葉山エリアで歩くことを楽しむとか、また出張にみえた方たちも、自然環境の豊かなところで少しランニングをしたりウォーキングを楽しむといったような、そういう健康志向の部分も青葉山のイメージに組み込んでいくといいのかと思います。

また、都市生活の中で、今は特にペット、犬を飼う方もすごく増えていて、犬の散歩ですね。きれいな場所で犬の散歩をしたいというようなこともあり、ペットに優しいような環境の空間づくりをしながら、市民生活を豊かにしていくという、そういった方向性もあっていいのかと、今は思い付きですが、そういったことを皆さんのお話を聞きながらイメージしました。

あと、ストーリーということについて私もとても大事だと思います。たくさん様々な施設が整備はされますが、そのストーリーをどのように組んでいくかということ。これはいくらでも出てくると思うので、いろいろな方々と議論しながら、たった一つだけに収めるのではなくて、多様なストーリーを持つエリアとして、みんなが楽しめるようなところを考えていくというのは大事だと思いました。

榊原座長代理： ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。庄子委員、お願いいたします。

庄子委員： すごく自然が豊かなところで、公共交通もすごく充実しているんですよ。ですので、公共交通も、自動車を入れないというのはなかなか難しいと思いますが、公共交通の利用を促して、公共交通と徒歩で歩いて回ってもらうような、そういったものをスト

ーリーの中にもどんどん入れて、カーボンゼロではないですが、自然や環境に配慮したまちづくりと一緒に青葉山エリアのイメージを作っていけたらいいのではないかと思います。

榊原座長代理： ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。もう一人ぐらい発言いただいて、僕もちょっと発言させていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

高山委員： 様々な施設が充実はしていますが、食という意味では、あのエリアで楽しめるスポットは少ないと思います。これまで既存の施設にあった、そういった食を提供する施設も多数閉めています。確かにあのエリアで経営をしていくのは大変厳しいと思います。ターゲットが観光客なのか、市民なのかによって、展開する形態とかも変わってくると思います。青葉山エリアにいらした方たちをまちの中に誘導すればいいというのも一つはあると思いますが、エリア内で多くの時間を過ごしていただくこと等も考えると施設の数としては、少ないと感じられますので、そのへんも全体で考える必要があると感じています。

榊原座長代理： ありがとうございます。時間がもう少しありますので、私からも、皆さんの意見を聞きながら、三点ほど、前提条件の確認と意見という形でさせていただきます。

一つは、青葉山エリア、広瀬川の右岸、西側ですが、これまでのまちづくりの経緯から見ても特別な場所だということを前提として議論したほうがいいのかと思いました。というのも、1600年ですかね、仙台城の町割りをして420年。当時はお城があって、町民がお城に行くことはなかったと考えられます。その後も軍事施設が置かれてきましたし、政（まつりごと）をやっていたエリアみたいな形で、市民の方たち、町民の方たちが、「向こうは特別、私たちが行ってはいけない場所」という意識がずっとあったのかと思います。といっても、それは最近まであったのだらうと思います。博物館とか東北大のキャンパスがきっかけで向こうに行けるようになった。米軍がいた頃から考えると、多分420年のうち70~60年ぐらい前にやっと市民の方たちが意識するエリアになった、と考えると、実はこれからの場所なのではないかと。当時は、このときは高度経済成長で人口がどんどん増えていったときに、市街地が拡大され、都心に建物が高密化されていって都市化がどんどん進んで、その開発とは一線を画してある種残った場所というか、そのままあった場所かなと思います。加えて、広瀬川があって、こっち側に来れる場所はすごく限定的だったということも含めて、やっぱり特別な場所だということを前提に議論すべきではないかということが一点です。

二つめは、皆さんおっしゃっていたとおり、いろんな施設がありますが、最大の魅力は豊かなパブリックスペース。パブリックスペースと言うとグリーンだけじゃない部分も出てくるので、あえて言うとグリーンパブリックスペース。緑豊かな広域な質の高いエリアに広がるというのは、先ほどの手つかずな部分があったからこそ守れてきた部分だろうと思います。加えて、その所有者の多くは仙台市だったり、河川は宮城県だったり国や東北大学など、公共だとか公共セクターが土地を持っている部分が多いということも、逆に言うとそれが弊害になる可能性もありますが、そういうエリアもしっかりタグを組めば、その特別なエリアというもののまちづくりが進められるのではないかと思います。そういった意味では、施設をつなぐとか、分断されているものをルートというかループにするという感じです。ルートだと一方で終わってしまうので、つなげるためのループにする、回遊するというようなことをしていくか、豊かなグリーンパブリックスペースをどのように質を高めていくか、つなげていくかというのが、先ほど

皆さんがおっしゃっていたことのポイントかと思います。

そういうときに一日の過ごし方、私、榊原家族がここで一日過ごすこんな過ごし方ができます、みたいなとこや、コンベンションでいらっしゃった方が開会式に行って、次の会議までの間が1時間ある場合、その1時間の楽しみ方でこういうことができます、みたいなことを冊子にしたり具体的に提示できたりすると、もしかしたらビジョンが、そういう過ごし方、こんなことができるような10年後になっているといいよね、みたいなものでも、行政計画っぽくないですが、そういうアウトプットの仕方もあると思いました。

三つめが、都心との相乗効果をどうするかというのは、皆さんご指摘があったところかと思います。都心というと、いわゆる商業・業務が高密化された都心と、先ほど言った開発と一線画してきたエリア、青葉山エリアというものが、異質ではありますが、お互いに持っているものが違うがゆえにお互いが補い合える関係、パートナーと言うんでしょかね。パートナーシップのある都心と青葉山エリアというものがしっかり位置付けられるというのがいいのではないかと思います。都心にはないもの、あるいは都心ではできないもの、民間が主体で都心が造られているということを経験したときには、どう経済性が発展するかだと思いますが、先ほど言いましたように、青葉山エリアは官が持っている部分が多いとなると、必ずしも経済的な部分だけではなくても、豊かなグリーンパブリックスペースがあるということ売りにして、健康や散歩がもしかしたらキーワードになりますが、そこに来た人が少しお金を落としてもらえらる仕組み、仕掛けができてくると、そこは民間がやれる力があるのではないかと思います。そういうのを、先ほど全体のマネジメントというお話がありましたが、官と民でどのように全体で同じ方向を向いて作っていけるかということがとても重要だと思いました。

アクセス性の話で言うと、先ほど2,000席の音楽ホールか、地下鉄で帰れるなど思っていて見えていたが、地下鉄東西線は1車両100人ぐらいで4車両で定員約400人なんです。だから、空の車両が来ても5回転しなければいけない。既に地下鉄で半分ぐらい乗っているとすると倍の10回転必要になってくると考えると、コンサートが終わった後や来るときに集中しないように、エリアの中で過ごしてもらおうとか、あるいは何か違う手段で、地下鉄の手段に加えて何か考えるとか。いろいろなことが考えられると思って聞いておりました。

急遽、座長代理ということで進行させていただきました。最後に要望ですが、できればエリアの中で会議するというか、どこかの場所でもしのできるのであればフィールドワークを少しして、皆さんも忙しい方たちなので時間の確保が難しいと思われそうですが、できる範囲で一回フィールドワークをして現地を見て、ここはあだね、こうだねということを経験した上で会議に臨めるとすごくいいと思います。これはあくまでも提案ですので、少し検討していただければと思います。

あとは、資料6と資料7ですね。市民アンケートの実施についてと、市民向けシンポジウムの開催について、事務局のほうからお願いいたします。

交流企画課長： 資料6をご覧ください。

本ビジョンを策定するにあたって、基礎資料とすることを目的として、市民アンケートを今実施しております。

「1 実施方法」にあるとおり、同一のアンケートを2通りの方法で実施しております。一つは市政モニターに対するものです。市政モニターとは、市政の課題等に関する

アンケートを実施して市民の意見を伺い、施策の企画や行政運営上の基礎資料とするために、あらかじめ本市が委嘱した18歳以上の市民200名のことです。もう一つは、一般市民へのアンケートです。こちらは各区から均等に50名ずつを選び250名の方々からアンケートを頂戴しております。現在、集計と分析を行っておりますので、次回の懇話会にて結果をご報告したいと思います。

続きまして、資料7をご覧ください。

仙台市がエリア内で進めている各事業を紹介するほか、様々な分野で活躍されているパネリストの皆さんによる議論等を通じて、市民の皆さまがこのエリアの将来像や新たな楽しみ方・過ごし方等について考える機会とするために、市民向けのシンポジウムを開催いたします。

机上に配布しました、あるいはメールでお送りしましたチラシをご覧ください。日には9月25日、場所は青葉山エリア内にあります仙台国際センターにて行います。

『歴史と今と未来をつなぐ～「青葉山エリア」の更なる魅力創出に向けて～』と題しまして、エリアの歴史や、文化行政、まちづくりの専門家による話題提供やパネルディスカッションを行います。本懇話会の委員であります、榊原様と藻谷様にもパネリストとなっていただくこととしております。

榊原座長代理： 資料6、7について何かご質問はありますでしょうか。藻谷委員、9月25日、どうぞよろしく願いいたします。

藻谷委員： 当日は今日よりもう少し格調高くさせていただきます。ただ、やはり市民が歩ける場所ということが一番私の言いたいことですので、その点はおそらく言ってしまうと思いますが、よろしくご容赦ください。

(3) その他

榊原座長代理： それでは、議事(3)その他として、何か皆様からご意見がありますでしょうか。大丈夫ですか。では、事務局からはありますでしょうか。

交流企画課長： 特にございません。

榊原座長代理： ありがとうございます。皆さん、ご協力ありがとうございました。以上をもちまして予定の議事は終了いたしました。与えられた時間の5分前に終わることができてホッとしております。それでは事務局に進行をお返します。どうもありがとうございました。

7 閉会

以上、議事等の記録内容につきまして、すべて相違はありません。

令和 4 年 10 月 26 日

議事録署名者

(委員) 庄子真岐

(委員) 神原進
